



国際親善ニュース

第 2 号

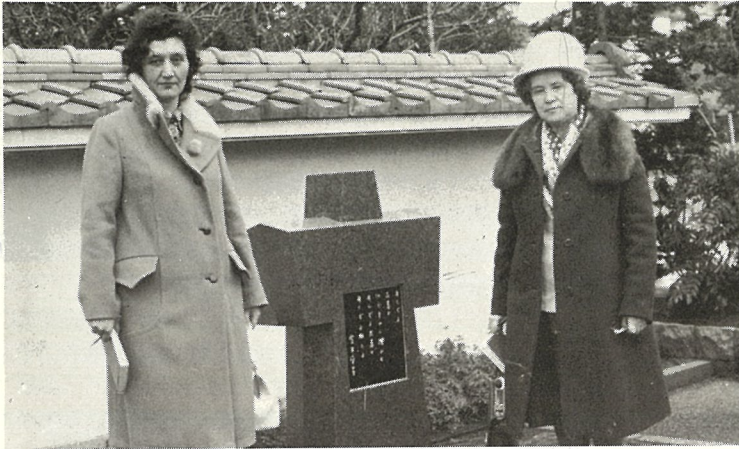
昭和52年1月25日発行

金沢市都市提携委員会

事務局：金沢市総務部総務課

国際親善係 TEL 20-2075

深まる友好と親善



○イルクワーツクから女性教師2名来訪

姉妹都市イルクワーツク市から昨年12月18日、教師代表団として、プリマーク初等学校々長とベレージナ初等学校主任が来訪。共に世界史の担当。一行は、1週間の滞在中、市役所、日ソ協会、根上町、県児童会館、中学校、保育所、少年自然の家、ロシア人墓地、兼六園などを訪問。教育関係者との懇談を通して日本の教育制度の実状について見聞を広めた。又、市内の教育現場を訪れた一行は、直接、子供たちや先生方と接し、大喜びだった。「ソ連では、7歳で就学、義務教育は10年制で、日本と多少異っているが、大変有意義な訪問だった」と語り、両市間の学術交流に新しい輪を広げ、23日、離別した。写真は、室生犀星文学碑前での記念撮影。右側プリマーク夫人、左側ベレージナ夫人。

○姉妹都市子供フェア開催

姉妹都市の子供たちを知ることによって国際親善を深めようと「姉妹都市子供フェア」が昨年10月1日から6日まで名鉄丸越8階フロアを会場に国際色豊かに開催された。会場には「こどもの森」「こどもの城」「絵本のある部屋」「国際パズル」のコーナーが設けられ、パファロ、イルクワーツク、ポルトアレグレ、ゲント、ナンシーから寄せられた絵画、絵本、玩具など千点以上が展示された。開会式には、外国の子ピッツ子を代表してアメリカのケンブ君がテープカットを行い、関係者の温かい拍手を浴びた。開催中の行事として「市民音楽パレード」「こどもカーニバル」なども行われ、会期中4万5千人の観客があり国際親善の促進に大きな成果を収めた。写真は開会式のテープカット。



○アメリカ建国二百周年記念親善訪問団のバファロ訪問

昨年本市から大多数の市民がバファロを訪問した。しかもこれが8月に集中、ちなみに10~13日、青少年訪米代表団16名が、19~21日、室井市議会議長ほか2名と兼六民謡会親善訪問団69名が、25~27日、商工会議所デザイン調査団15名が、26~29日、嵯峨北陸放送社長を団長とし、岡市長も特別参加した県音文協石川の翼親善訪問団152名がそれぞれ訪問、これら各界各層の大多数の金沢市民を受け入れたバファロ市ではマコウスキー市長が8月を「金沢の月」と宣言するなど友好親善ムードはいやがうえにも高まった。写真は、8月28日バファロ市のクラインハンス音楽堂での石川の翼公演を前にして岡市長とマ市長の「記念品交換セレモニー」。



新春座談会



姉妹都市交流について

出席者

佐々木敬吉 (日本航空金沢営業所長、金沢市都市提携委員会委員)
小津 正昭 (自営業、過去ナンシー、パファロ訪問)
清瀬 隆子 (島田化粧品店勤務、過去ナンシー、パファロ訪問)
司会 渡辺総務課長

司会: お忙しいところお集まりいただき本当にありがとうございます。さっそくですが、国際経験豊かな皆様方から姉妹都市活動の今後のあり方といったことからお聞きしたいと思います。

小津氏: 多数の市民が姉妹都市へ行けるような、又、向こうからも来れるような機会をつくるのが大切だと思いますね。

清瀬さん: 同感です。私は、ナンシーとパファロを訪れましたが、もっと多くの人達が訪問し、交流が深まればと思います。

司会: そうした機会は提携委員会ばかりでなく、いろいろの関係団体からも生まれてくると思うのですが、日航の佐々木さんには、そうした点で大変お世話になっておりますが……。

佐々木氏: 市民全体の深い理解が必要だと思いますね。1つの例ですが、タンダス(カナダ)と加賀市は、姉妹都市で、1年おきに子供たちの交流をやっているのですが、タンダスでは子供たちが卸店から卵を安く買い取り、今度は市民に高く売って、その金で加賀市へやってくるのです。市民全体、町ぐるみで姉妹都市交流に高い理解があるからですね。

小津氏: 昨年秋の姉妹都市子供フェアのような催しは、姉妹都市活動を市民に知っていただくことで非常にP・Rになったと思うんです。

司会: 親善交流が特定の人に独占されるのではなく、一度、姉妹都市を訪問した人達が、他の人達に呼びかけるなどして、もっと交流が広がることを私たちは期待してるのですが……。

清瀬さん: そうですね。経済的な問題もあるでしょうけど、やはり行ってきた私たちの働きかけも大切で、そうしたことがさき程、佐々木さんが言われた町ぐるみの理解へつながって行くのではないのでしょうか。

司会: 姉妹都市交流は、人の交流があって始めて意味があると思うんです。現在、姉妹都市は5つありますが、飛行便の都合などでどうしても交流が不活発になってるところもあり、今後の課題ですね。

佐々木氏: 金沢の姉妹都市交流は、全体的に見て非常に健全な形で育ってきていると思います。例えば、パファロと提携して今年で15周年ですが、まず家庭訪問を通してアメリカの生活

様式を知ったり、アメリカ人に対する考え方の偏見が変わってきていることは確かで、次のステップとして最近、文化交流へと発展してきており、幅広い相互理解へとつながって行くような気がしますね。ただ、今言われたように交流のほとんどないところもあるようですが、これは逆に、私ども航空会社の責任かも知れません。

小津氏: 交流の少ないところとも活発にやる必要がありますね。私どもの民謡団体もなんとかしてそうしたところへも行くような努力をしてみたいと思っております。

司会: 貿易面で、日本は今、ECから締出しをくっておりますが、国際親善にしても相互交流のバランスが必要ではないかと思うのですが。

小津氏: そうですね。行くばかりでなく、来てもらうことが大切ですね。ナンシーとの交流は、最近そうした形になりつつあると思うんです。問題は、今後そうした実質的な受入れなどを民間ベースへ持って行くことだと思うんです。

司会: すべての人達がそうした意識を持っていなければ結構なことだと思うのです。例えば、向こうで家庭滞在をされたらこちらもお世話するということが大切だと思いますが、まだそういう気風が希薄な感じがしますね。

ところで、これだけ交流が活発になってきますと訪問者にも正しい国際感覚といったものが要求されるのではないのでしょうか。

小津氏: 確かにそうですね。私などは何もわからずに外国へ行って来ましたが、今から思うと冷や汗ものですね。

佐々木氏: 大切なことは、たとえ何も知らなくても外国の何かを感じ取って帰られたということだと思うのです。これが国際理解だと思います。金沢には最近こうした人々の輪が急激に広がってきておりますが、姉妹都市交流がもたらしたひとつの素晴らしい出来事だと思うんです。ただ、来客を迎える場合、まだ料理屋等へ連れて行ったりする人がおいでするんですね。

司会: 外国からの訪問団があつて交歓パーティなどしますと、日本人だけかたまってしまうんです。言葉の問題だけでないような気もしますが……。

佐々木氏: 日本人だけのパーティをしてもグループでかたまってしまうですね。外国人は、話題をつくるためによく百科辞典を買う習慣があるそうですが、彼らは、あらかじめ、パーティ出席者の仕事に関係する事柄を辞典で調べ、パーティに臨み、知らない事を他人から吸収しようとする習慣があるんですね。その点、私たち日本人は、もっと話題豊富でなくてはいけないですね。

司会: 日本人は、家庭に人を呼んで食事をするとといった習慣もないようで、かなり閉鎖的ですね。心の中で思ってもなかなか態度に出ないんですね。

清瀬さん: 言葉の問題がかなりあるように思うのですが……。向こうへ行つたとき、外国の民謡などを口ずさむとみんなそれにのってくるということがありましたけど、話をするとたまたまニコニコと笑うだけで終わってしまいました。

司会: 清瀬さんのグループは、ナンシーへ行かれたとき、別れを惜しんでみんなバスを囲み、なかなか出発できなかったそうですが、その後、知り合った方と文通などをみなさんされておいででしょうか。

清瀬さん: 大部分の方がずっと続けておいでで、中には、赤ちゃんが生まれたという手紙をもらった方や乳母車まで贈ってもらった方がおいでです。

司会：やはり、そうした一生に一度しかないような出会いは、本当に大切にしたいものですね。


清瀬さん：昨年6月のナンシーからの訪問団の中に私たちが泊った青年の家の管理人夫婦がおいでで身ぶり、手ぶりで再会を喜び合いました。

佐々木氏：素晴らしいことですね。日本人は、旅してくると非常に感激して帰りますが、冷めるのも早いですね。季節の簡単なあいさつ文を送るのも必要ですね。

司会：今日は、大変貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございました。今後ともよろしく御指導願います。

＝ バファロ滞在記 ＝

金沢市長 岡 良 一




バファロ (Buffalo) は、野牛のことだが、町の人達の友情は、誠に感激的なものである。私の思い出のひとつは、二十世紀クラブと言う御婦人の団体に招かれた時のことである。厳しい男子禁制の集いであった。さて、おばあちゃん達が子守歌を歌えとおっしゃる。「夕やけ小やけ」を歌ったら、そんな声では寝た子も起きますよとひやかされたものであった。

私は、ナイヤガラ滝を見るのが好きである。トロントから、即ち、カナダ側から二度ばかり訪れたことがあるが、今度は、バファロから案内された。ナイヤガラとは、インディアンの言葉の「雷」と言うことらしい。なんでも凍って音がしなくなったので、インディアン達が滝のほとりでお祈りをささげながら神の怒りの解けることを願ったと言う。しかし、バファロ側に比べて、カナダ側では、まったく印象が違う。きれいな芝生と亭々たる老樹、その中に点々と真白な木造建てが点在している平和なたたずまい。その芝生の原生のリンゴの花が美しいと見惚れていたら、バファロの市長さんから苗木を二本贈られた。昨年の秋、友達にたのんで植えてもらってあるが「なんとか花をつけてくれ」と楽しみにしている。

＝ ポルトアレグレ滞在記 ＝

金沢市議会議長 室 井 光 栄



バファロ市の親善訪問を終え、私たち一行は、リオデジャネイロ、サンパウロを経由してポルトアレグレ市へ向った。途中のサンパウロ市では、在郷日系人石川県人会(山本会長)の心温まる歓迎を受け、妙な「なつかしさ」を覚えた。

ポルトアレグレ市には8月26日に訪れた。市役所を表敬訪問し市長となごやかに歓談、持参の美川刺繍によるポルトアレグレ市章の額を贈るとともに、あわせて金沢市への訪問招請状を手交した。また、折しも議会が開かれており、市議会においても大変な歓迎を受け、きわめて友好裏に交歓がなされたところである。これも偏見に日伯の長い友好の歴史と現地においてきわめて評価の高い日系人の活躍のたまものと深い感慨を覚えざるを得なかった。観光局における記者会見では、現地のマスコミと今後の友好親善関係の促進について活発なる意見交換がなされ、あらゆる障壁を乗り越えたゆるぎない平和の追求が確認された。そして、両市の一層の交流を願って、桜の苗木を金沢

市が贈ることを改めて約束してきたのである。

ブラジルは、ガイゼル軍事政権の施政も深く根をおろし始めてきており、人口80万のポルトアレグレ市もまた南米特有の陽気に満ち満ちていた。私たちは、今後、さらにポルトアレグレ市との交流を深め、両市民いや両国民が深い友情に結ばれていくことを祈念してこの町をあとにした。

○ようこそ駐日フランス大使

ジャン・ビエール・

ブリュネ駐日フラン

ス大使がジェンヌエ

イブ夫人、ムニエ書記官

とともに昨年11月22日

本市を訪問した。古い

日本の伝統が生きてい

る金沢をかねてから一

度訪れてみたかったこととナンシーと金沢の提携活動への関心

が直接の動機で、3日間の滞在中、市内見学、市役所、日仏協会、大樋氏宅の訪問、近江町市場、能登、永平寺などを見学したが、兼六園では、雪づりの美しい風景に「エクセラシオン(すばらしい)」を連発。又、買物客でこった返す近江町市場にも気軽に足を運ばれたが、あまりの活気に驚いたご様子。ジェンヌエイブ夫人は「東京よりお魚が安くていいですね」と主婦らしい感想を述べられた。大樋氏宅では、夫人のお手前でお茶をごちそうになり、行儀作法などの説明に大ききうなずかれ、熱心に質問されるなど茶の湯に強い関心を示された。又、市役所訪問の際、岡市長とも親しく懇談され、友好を深めた。写真は、石川門を背に記念撮影の大使御一行。



○金沢大学とナンシー第一・第二大学が姉妹校提携

金沢大学訪仏学術交

流団は、姉妹都市ナン

シー市でナンシー第一

・第二両大学と姉妹校

提携を締結した。一行

は、豊田学長、堀理学

部教授、岩医学部教授、

清原教養部教授の4人

で、昨年9月17日から2週間

にわたりフランス国内の大学、

スイスの欧州原子核研究機構、

ドイツのレーゲンスブルグ大学

などを訪問。ナンシーに3日間滞

在。21日に念願の協定文に調印

した。協定の有効期間は5年間

でその後は5年ごとの自動延長。

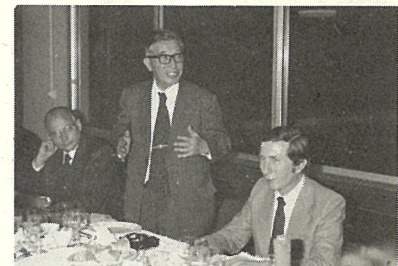
これにより研究資料、刊行物、

学会などの内容交換などを今後

行う。又、近く金大医学部から

研究員2人を派遣する予定。写

真は、ナンシー大学での歓迎会。



○オーストラリア・ビクトリア州開発省長官来訪

ビクトリア州開発省長官ブレイトン夫妻が昨年11月16日に来訪した。同長官の来訪の目的は、同年10月に石川県海外繊維見本市がシドニーで開かれた際、知り合いとなった中西県知事、山本繊維協会々長、江川市助役と再会したいということで、本市に4日間滞在中、3氏との友好を温めた。滞在中、兼六園、能登半島などを見学したが、日本の古い伝統美に強い関心を持たれた。江川市助役と夕食をともにした際、オーストラリアに留学した山下優美さんも同席。楽しい歓談のひとつを過ごし、19日、京都へ向け離別した。

ミニ・レポート

○ナンシーから塩谷氏来訪

姉妹都市ナンシーからナンシー日仏協会役員塩谷 敬氏が1月2日来訪し、1週間、本市に滞在した。ナンシー世界演劇祭準備委員でもある同氏の来訪目的は、今年と同演劇祭に金沢の能楽を招請したいということで、金沢能楽会の佐野正治氏と話し合ったが、今回は、日程の都合などにより派遣は無理ということになった。同氏は、ナンシー日仏協会会長ピエールソン氏の秘書役でもあり、金沢からの訪問グループのほとんどが同氏の通訳でお世話になっている。こうした人達とも再会でき、温かい歓迎を受けた同氏は、「金沢の人達の温かい人情に感激しました。」と嬉しそうに語り、9日朝、東京へ向け離別した。

○インドネシアのお正月

留学生アリフ君から楽しいインドネシアのお正月を聞きました。インドネシアでは、ほとんどの人がイスラム教徒で、暦もイスラム教の暦で、ヒジラと呼ばれ、今は1395年だそうです。日本でいうようなお正月はなく、イーツルフィトリという2日間の祭日がそれに相当する。イーツルフィトリとは清い心になることを意味し、人々はこの日に生まれ変わったような気持ちになるのです。毎年、秋にあり、その前約1ヶ月間は昼間、ラマダンと呼ばれる厳しい断食をしなければならず、それが終わってイーツルフィトリを迎えるのです。その日は、晴着を着て街の広場に集まり礼拝し、お互いにあいさつを交わします。勿論おいしいごちそうも食べ、バナナやヤシの葉でくるまれているそうです。最後に「日本はどうして旧暦でお正月をしないのですか。その方が日本的なのに」と不思議そうでした。写真は、インドネシアの民族舞踊



○大きくなった白樺の木

イルクーツクから贈られた白樺の木(写真)がすくすく成長しており、昨年5月に植えられた時1.1m たらなかったのが、もう1.5m位になっています。少年自然の家の前に仮植中ですが、訪れる子供たちからも可愛いがられ、すっかり金沢の土地になじんだようです。市では、ある程度成長させた後、少年自然の家の周囲に移植の予定。なお、この白樺の木は、森日ソ協会石川県連合会会長と鶴森理事長がイルクーツクを訪問した際、本市が贈ったチューリップ球根の返礼として託され、持ち帰ったものです。



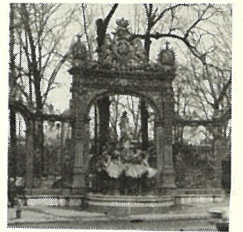
○ナンシー「黄金の門」修復資金募集報告

姉妹都市ナンシー市からの支援依頼に基づき、同市スタニスラス広場にある18世紀の歴史的建造物「黄金の門」修復用資金を援助するため、関係者を対象に寄附募集を行ったところ多数の方々から総額21万円ものご寄附を賜りました。本紙上をお借りし、温かいご支援に心からお礼申し上げます。

なお、送金後、ナンシー市から感謝に満ちた礼状と寄附者あ

てに記念品が送られて来ました。

寄附者御氏名(受付順)：小津正昭、山本 昇、高畠一男、滝尾照士、岡田明也、青木周三、高倉健次、梅田武一、米田正一、荒木吉久、豊田文一、中島サチ、中島正勝、榎本英彦、木田喜一、徳田与吉郎、西田久子、三谷進三、岩喬、中山春子、江川 昇、野村昭子、牧野佳子、石田博子、徳野信江、上木典子、国沢貞男、柿木秀治、浅野国平、吉村慶子、万年三郎、川北 篤、樋田二郎、岡 良一、水上つや子、川辺美津枝、北川豊子、高山外余子、義談善中、吉村君子、吉村英子、輪島ハナ、佐伯外栄子、山際末子、石井絢子、河合和子、大滝由季生、石田直行、石川県音楽文化協会、橋場和史、小西賢一、大村松雄、針多節代、成岡明子、福岡和夫、藤村和昌、山田照美、中田文夫、中浜純子、田辺 実、荒木恵美子、三浦和代、寺西経信、大久保満、上口大介、島村泰子、長田寿美子、藤農花江、浅野賢治、島野嘉代子、古田秀治、寺本 努、山下民夫、山上邦夫、加藤陽子、正印克夫、桶谷伊津子、佐久間幸子、熊本峰子、中田則子、大村真理、清瀬隆子、松本ゆり、谷内みち子、倉見清子、徳田芳子、森井知子、泉屋トメ、藤島文海、高野時子、道下はる、広沢敏子、岡田トシ、高桑恵美子、東急観光(株)金沢出張所、飴谷昭子、村松英一、上田忠雄、山本 茂、池田茂樹、池田君子、木越 勲、清水誠一、大樋年郎、岡山 節、中村道夫、水戸部干鶴子、北村敦子、嘉向秀雄、油谷外郷



○マルタン市長からの岡市長あて礼状(訳文)

市長ならびに親愛なる同僚閣下

あなたは、金沢の多くの人々から寄附を募るにより、スタニスラス広場の壮麗な黄金の門の腐朽を防ぐため、あなたの温かい御意志をお示しく下さいました。

この御行為に、ナンシー市の全市民がどんなに深く感動したことでしょう。18世紀の建造物として名高い記念碑的作品を保護するための私どもの呼びかけにこうして誠実にお応えくださったことを心から嬉しく思います。

私どもの感謝の念のあかしとして、ナンシー市のこのささやかな記念品をお受け取りいただきたく思います。

敬 具

ナンシー市からの記念品(小冊子)は、さっそく皆様方にお送りいたします。右上の写真は、黄金の門。

事務局だより

○ただ今、姉妹都市パンフレット作成中

8年前に姉妹都市パンフレットを印刷しましたが、その後、姉妹都市の数がふえるなどして内容が古いものとなったので、当事務局では現在、改訂版を編集中です。このパンフレットが単に記録としてでなく、都市提携そのものの理解に大いに役立つことを期待しております。

○編集後記

金沢の姉妹都市は、全部で5つありますが、これは全国で神戸と並んで3番目に多い数です。城下町といういわば封建的土壌の中で発展してきた金沢にしては画期的なことも知れません。姉妹都市との国際交流を通して、さらに高い文化が北陸の古都、金沢に生まれればと思います。